



【本教材のガイダンスと到達目標】

対象者： 福岡県公立高校入試を受験する中学 3 年生（および指導者・保護者）

特に向いている生徒：

- ・ 記述問題になると何から書き始めればよいか手が止まる生徒
- ・ 指定語句をただ文末に付け足してしまい、答案として不十分になりやすい生徒
- ・ 「理由」「変化」「目的」など、問いの要求に合わせた文末でまとめられない生徒
- ・ 資料（系図・グラフ・史料）を見て、どの事実を言葉にすればよいか迷う生徒

このプリントでできるようになること：

1. 指定語句と設問要求を確認し、結びつく「述語（動作・変化）」を決めて、答案の骨格を組み立てられるようになる。
2. 「理由」「変化」「目的」「仕組み」という設問要求に合わせ、論理的なズレのない文末で答案を結べるようになる。
3. 提示された資料（系図や統計）から必要な事実を抽出し、指定条件と言語的に結合できるようになる。
4. 自分が書いた答案を「指定条件」「主述の対応」「文末の整合」の 3 点からセルフ添削できるようになる。

【冒頭 1 分要約：12 年分析が導いた結論】

【結論】 記述問題で必要なのは「文才」ではなく「指定語句から逆算する骨格設計」である。

2015～2026 年度の 12 年間の出題データを分析すると、大問 1 の記述には以下の明確な特徴がある。

1. 12 年度連続の条件指定： 2015 年度以降、毎年必ず「指定語句」または「書き出し指定」を伴う記述が出題されている。
2. 指定語句は答案の骨格： 指定語句は文章を飾り立てる単語ではない。「指定語句＋対応する述語」を先に整理することで、答案の主述・因果関係の骨格を作りやすくなる。
3. 2 大系統の存在： 教科書知識を論理化する「説明記述」と、提示資料の事実を言語化する「資料読解記述」に分かれる。

★ 指定語句を文末に無理やりねじ込むな。「指定語句をどうするのか（述部）」を先に決めて骨格を組め。

第1章：12年間の記述出題データと基本構造

1. 12年間の出題データから確認された客観的事実

- ・年度単位の継続性：2015～2026年度の12年度すべてで、指定語句または書き出し指定を伴う記述が少なくとも1問確認されている。ただし、すべての記述問題が条件つきだったわけではなく、2026年問3のような条件指定のない読解記述や、2024年問6・2026年問5のような短文記述も含まれる。
- ・2大系統の定着：制度の目的や因果関係を説明する「説明記述」と、系図・グラフ・史料から根拠を拾う「資料読解記述」の2系統が定着している。

2. 出題された主なテーマと要求内容（推移の確認）

- ・古代：摂関政治の仕組み（娘をきさきにする・皇子の即位）
- ・中世：承久の乱後の地頭任命、御家人の分割相続、日明貿易と勘合の役割、正長の一揆と徳政（借金の帳消し）
- ・近世：参勤交代の財政負担、幕府の貿易統制と利益独占、農村の貨幣経済と商品作物売買、工場制手工業（マニファクチュア）
- ・近代：幕末開港と綿織物輸入、産業革命（綿糸の輸出超過と軽工業）
- ・現代：農地改革（自作農創設）、エネルギー革命（石炭から石油へ）

第2章：条件つき記述を攻略する「3つの思考手順」

手順1：設問要求の判定（文末の型を決める）

設問の末尾を確認し、問われている論理を特定する。ここを誤ると、内容が合っていても設問要求を満たせなくなる。

【設問要求ごとの合わせやすい文末パターン】

- ・「理由を答えよ」（求める論理：原因・理由）
→ 合わせやすい文末：～ため。／～から。
- ・「変化を説明せよ」（求める論理：前後の変化）
→ 合わせやすい文末：～へ変化した。／～ようになった。
- ・「目的を答えよ」（求める論理：行為の目的）
→ 合わせやすい文末：～ため。
- ・「仕組み・特色を説明せよ」（求める論理：制度・状態の内容）
→ 合わせやすい文末：～こと。／具体的な仕組みを述べる。

手順2：指定語句の「述部」確定（骨格パーツを作る）

指定語句を見たら、その語句とセットになる「動詞・形容詞（どうする・どうなる）」を整理する。

【指定語句から組み立てる骨格パーツの例】

- ・指定語句：[土地] [御家人]
→ 結びつく述部：朝廷方の土地を没収し、幕府側の御家人を新たに地頭に任命した
→ 骨格パーツ：朝廷方の土地を没収し、幕府側の御家人を新たに地頭に任命した